

なんかい

NANKAI

vol. 120

2020.11

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankaiyou.or.jp/>



オンライン面会

主任生活支援員 唐津伸康

現在も全世界をはじめ日本各地で新型コロナウイルス感染症拡大や感染関連のニュースが連日、報道されています。当施設でも感染症拡大防止徹底の為、利用者やご家族の皆様にも外出や帰省などの制限をお願いし、ご協力をいただいております。

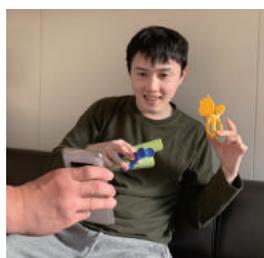
現在、オンラインを利用した、リモートワークやリモート会議、オンライン飲み会など新たな生活体系が構築されつつあります。当施設でもオンラインを利用し、ご家族と面会をしてもらうという取り組みを進めている段階であります。すでに数名の利用者の方が、試行的にオンラインを利用した面会を複数回実施しております。久しぶりの面会に少し照れた様子で隠れながらご家族の顔を嬉しそうに見つめ、頷いておられる姿や画面を通して両親の姿を見て満面の笑みを浮かべておられる姿に我々職員も嬉しい気持ちになります。

帰省や外出等の制限下でも、オンラインを利用する面会を行う事で、利用者の方々のストレス解消や楽しみとして支援を行っていただければと思います。

今回のコロナ禍に限らず、今後もインフルエンザ等の感染症が発生した場合は、オンライン面会等に対応

できるような準備を本格的に進めていかなければなりません。ご家族が遠方におられる利用者や、ご家庭の事情等で帰省が難しい利用者の方でも、ご家族に協力していただきながら一定のルールを定めた上で、可能な限りオンライン面会を実施したいと考えております。オンライン面会を実施するための機器や環境が十分でないご家族等については今まで通り写真や手紙、電話等での近況報告などを行ってまいります。

現在、身近なところにも新型コロナウイルスの脅威は近付いています。職員一同、感染防止対策を万全に行い、利用者の皆さんが安心して過ごせるよう支援を行っていきたいと思います。1日も早く終息して普段の生活が送れ、利用者の皆様がい前のように外出や帰省ができる日が来る事を祈るばかりです。引き続きご家族・関係者の皆様には、ご理解とご協力をお願い致します。



スマホで、家族とテレビ電話する利用者さん

施設内研修報告. I

個別支援計画書について

副主任支援員 田中 雄三

私たち支援者は、利用者さん個々の「個別支援計画書」の作成に関与していますが、その内容が利用者さんのニーズや思いをどれだけ反映できているか等をもう一度考えるため、研修会ではなぜ個別支援計画が必要なのか、どのような考えで作成しなければいけないのかなどを再確認しました。その後、実際の個別支援計画書を例にとり、皆で意見を出し合い、その人が必要とする支援は何か等話し合いを行いました。

個別支援計画書は、計画に対して支援者が適切に履行できていたか、支援に対してどのような効果を得られたかを評価・検証し、必要に応じて修正しなければなりません。そのため、支援記録については、数値化や具体的でわかりやすい記述をしておくことが求められます。支援計画を支援員が把握、情報共有し、共通した支援を行い、質の高いサービス提供に繋がっていかねばいけないと感じました。



施設内研修報告. II

普通救命研修

看護師 小野 理恵

当施設では、毎年9月に「救急法」（心肺蘇生法）の施設内研修を行っています。例年、消防署より救急救命士の方を講師として招き、心臓マッサージやAEDの使用法の講習を受けていますが、今年はコロナの影響で講師をお招きする事ができず、消防署より心臓マッサージ練習用の人形と、AEDのデモ機をお借りし、それを使用して救急救習を受けた職員が講師となり実技研修を行いました。

また、利用者さんの高齢化・重度化により、誤嚥や窒息のリスクが高くなっていることを踏まえ、窒息時の対処法として、「ハイムリック法」「背部叩打法」を2人1組となり練習しました。いざという時に練習の成果が発揮できる様、皆真剣に取り組んでいました。



施設内研修報告. III

虐待防止研修

主任支援員 大仁田 美穂

例年、当施設では虐待防止に関する内部研修を年間3回程行っています。内容はセルフチェックにて自身の支援を振り返る事、参考文献を用いて虐待が起きる原因や、ご利用者様ご家族様の気持ちを考えることなど様々です。その中で、人はそれぞれの考えや感じ方があり、虐待の捉え方も違います。どこからが虐待なのかという明確な線引きが難しいグレーなケースもあります。今回の研修では、考え方や捉え方はそれぞれ違ったとしても、支援者として日々の業務で常に心に持っておきたい大切な事は何かをテーマに話し合いました。たくさんの意見の中から、「感謝」という言葉を忘れずその思いが伝わる様に支援を行おうとなりました。

虐待は決してしてはいけないとの意識を一人ひとりが持ち、利用者の皆さんに「感謝」の気持ちを忘れずに、丁寧な言葉遣いと支援を心掛け、チームで協力して支援するという当たり前の事が常に行えるようにこれからも取り組んでいきます。最後に、ご家族や関係者の皆様のご意見やご指摘は、南海寮にとって大変あり難い事です。気になる事がありましたらどうぞお聞かせ下さい。

施設内研修報告. IV

障害支援区分の認定調査について

支援員 山本 富喜子

障害支援区分とは、障害の状態に応じて必要とされる支援の度合いを表す6段階の区分で、各種福祉サービスを受けるために必要です。認定調査では、利用者さんに調査を行い、その結果と医師の意見書の内容を総合的に勘案した審査判定が行われ、市町村が認定。必要とされる支援の度合いに応じて適切なサービスが利用できるように導入されています。認定調査では、利用者さんの日常生活での様子やどのような支援を行っているか等、調査員の方に詳細に伝える事が求められます。その為、必要となる面談技術や調査内容をロールプレイしながら学ぶ研修を行いました。今後、認定調査において、各自が利用者さんの状況や支援の必要性を正しく調査員に伝えることができるようスキルアップに繋がっていきたいと思います。





おいしい〜♪

弁当バイキング

運動場やテラスで食べました！



夕涼み会

感染症大防止の観点から、本年は入所・グループホームの利用者のみで実施しました





9月29日
風船バレーをしました！



支援の現場から

支援内容や取り組み等をご紹介します。

情緒の安定を図る

～Hさんへの支援～

生活支援員 金子恵三

Hさんは、障害特性による記憶の混乱や、事実とは異なる認識によって、興奮が誘発されたり、特定の物への執着や拘りを持ち合わせた方です。職員同士で話しをして光景を目にすると、「自分の事を言っている」と誤認識され、急に興奮し、暴言や衝動行為があったり、昔あった事を思い出し不機嫌となられる事もあります。その他、普段の服装もYシャツやジャケット、スラックスなどフォーマルな服装を好んで着られるなど様々な嗜好や拘りがあります。シャツのボタン外れやベルトの破損があった際には、不穏状態になられるため、直ぐに交換できるよう予備のボタンやベルトを常に準備しておくなど、迅速に対応する事で情緒面の安定を図っています。その他にも金銭への拘りや、外国硬貨のコレクション、腕時計、家電（デジカメ・ICレコーダー等）と様々な趣味・嗜好があります。

しかし、物の扱いには粗雑なところがあり、購入してすぐの物を壊してしまったり、度々紛失される事があります。そ

の際、物の大切さや我慢していただく事も知っていただきたいたいという思いから毎週Hさんにお渡ししているお小遣いを少しずつ貯め、目標金額に達してから新しい機器や嗜好品の購入を行っています。

また、外国硬貨の紛失や腕時計の破損については、額に硬貨を入れ、インテリアとして飾れるようにしたり、腕時計も専用の物（12本収納可能）を購入し居室に飾れるようにする事で、紛失や破損も解消できています。他にもご家族の面会日程など（いつ来るのか、正確な時間等）気になることがあると不穏になり、面会の日まで待ち遠しく、前日頃になると何度も自宅に電話をかけ確認をされたり、興奮もあるため、ご家族に協力していただき、実際の面会日より1～2日後の期日を伝えてもらい、本人用のカレンダーに記入して、Hさんにも面会日程の確認を行えるようにする事で、安定を図っています。様々な要望や拘りがある中で、Hさんの想いに寄り添い、丁寧な対応と傾聴を行うことで、次第にこちらからの話しや提案も受け入れて下さる機会が多くなりました。今後もHさんが安心して落ち着いた生活を送られるように支援して行きたいと思えます。

共に成長していく

～Kさんへの支援～

生活支援員 高瀬大介

Kさんと初めて出会ったのは、今から6年前。支援学校から現場実習に来られた時です。担当の先生より、Kさんの特性を伺い、その中で否定的な言葉掛けをすると手が出てしまう事があるなど色々教えていただきました。

実習中のある時でした。食後、歯磨き介助の声掛けを他の利用者さんと同じようにしたところ、一旦応じられたと思った瞬間、頬に強い衝撃を受けました。あまりにも突然の事で「この人はなぜ手を出しのか？」と疑問に思いました。しかしその後、学校からもらった資料（アセスメント）を再度確認すると、歯磨きは概ね自立しており、介助で歯磨きをしたことがない事がわかりました。それでも当時の私は自閉症スペクトラムや発達障害に対する知識が乏しく、「この方は話す事ができるのに、なぜそのような行動が必要だったのか？」と考えていました。しかし、その後しばらくして自閉症（発達障がい）の研修会がありその中で「発達障がいの方は凸凹さん」との話がありました。発達障がいに見られる凸凹

とは、得意な部分と、困難な部分の差が大きいことをいいます。また、本人の意志や意向と、表出される言動が必ずしも一致するわけではないとの話もありました。Kさんも手を出したかったわけではなかったのです。歯磨き介助の声掛けがきっかけで「その方法しか逃げ道がなかった」ということを理解する事ができました。その後のKさんは、電気を消した真っ暗なトイレに10分程閉じこもられていました。そういった行動をさせてしまった原因が私の知識や技術不足によるものだと気付かされ反省しました。

その後、支援学校を卒業され、6年経った現在も自宅から通ってご利用をいただいています。本人の思いに寄り添いながら支援を行う事で、衝動的な行動などが行動上の問題が表出される回数も徐々に減ってきました。しかし、支援者側の対応や配慮が至らない事もあり、環境との相互作用から引き起こされる行動上の問題や、支援上の課題はありますが、それらの課題に対してこれからもKさんと試行錯誤しながら適切な支援を模索し、共に成長しながら取り組んでいきたいと思えます。

通所センターだより



今回は8月に行った「かき氷会」を紹介します。皆さんはかき氷と聞き、何を思い浮かべますか？私はメロン味、ブルーハワイ味を食べて「おぼけだぞ〜」と舌を見せた事を思い出します。さすがに今はしませんか？（笑）

それはさておき、今回のかき氷会ですが、コンセプトは屋台のかき氷屋さん。利用者さんも屋台の店員さんとして参加して頂きながら、「最高のかき氷」を提供する！をテーマに実施しました。かき氷の蜜の味の選択と交換にチケットを取り入れ、チケットブースで希望の味を伝え、味ごとに色分けされたチケットを受け取り、かき氷ブースで引き換えるといった流れです。それぞれのブースは利用者さんに担当していただきました。ここでエピソードを一つ紹介します。

チケットブースの係をされていたHさんには、「イチゴ味が食べたい」という秘めた思いがありました。しかし、予想以上にイチゴ味が大人気で、イチゴ味のチケットが残り3枚になってしまいました。すると、イチゴ味の注文をされた他の利用者さんに「えっ！？マンゴーじゃないの？ブルーハワイは？」と、別の味を勧められたんです。慌ててHさんの分の1枚を確保すると安心され、その後は「何味にしますか？」と対応されていました。先に希望をお聞きして渡しておくべきだったと反省です。

かき氷ブースでは、次々に入るオーダーに対して、矢継ぎ早に「カシャカシャ」と氷を削り蜜をかけ提供。時間との勝負です。一番人気はイチゴ味、次いでブルーハワイ、メロン、マンゴーの順と続きました。皆さん笑顔で、楽しい時間を過ごして頂くことができ良かったなと感じています。最後に「最高のかき氷」の意味ですが、容器から氷が山の様に出ている、「ザ・かき氷！」を作る為に、かき増しとして、実は、氷の下に、バニラアイスが少しですが入っていたんです。スペシャルでしょう（笑）

浦上 寛司



駐車場整備工事完了

施設敷地内の駐車台数確保のため、今夏より進めていた工事が無事完了しました。新たに25台の駐車が可能になりました。工事期間中、施設への出入り等ご不便をお掛けしました。

中村幾恵先生、（真美体操講師）

長い間ありがとうございました！



長年「真美体操」（リズムダンスなどの健康体操）の講師としてお世話になっていた中村先生が、この度天草の地を離れるとの事で、9月が先生による最後の体操となりました。30年超という長い間、本当にありがとうございました。

編集後記

今号のトップページでオンライン面会を紹介しましたが、コロナ渦の中、世間ではオンライン授業やオンライン飲み会が登場するなど新しいコミュニケーションの方法が、いっきに広がりを見せました。私も流行りのZOOMを使い、他県の友達と話しましたが、遠くへ出かけなくても会う事ができ、便利な方法だなと思いました。そんな中、流行りに逆行するようですが、知り合いから絵手紙が届きました。季節ごとに近況や様子伺いの言葉を添えていつも送ってくださいます。話そうと思えばすぐにでも繋がる世の中ですが、沢山の話をしなくても、ちょっと気にかけてもらえていることがとてもうれしかったです。コミュニケーションの方法は色々ありますが、オンラインでも手紙でも「どうしてる？」の一言で気持ちが暖かくなります。何かと閉塞気味の今日この頃ですが、改めて人との繋がりを大切にしたいと思いました。

松下加津美

利用者入退所、職員入退職

■退所

有江康子 様（施設入所）

■入所

安達太郎 様（施設入所）

■入職職員

田尻町子（支援員）
松下里奈（看護師）

■退職職員

野島広和（支援員）
櫻井裕己（支援員）
高瀧大介（支援員）
中嶋美桜（支援員）

今後の予定

12月10日 餅つき・忘年会（利用者・職員のみで実施）
1月 どんどや